



令和3年度 第2回 見えにくさのある児童生徒に関わる指導者研修会<報告>

今夏は、新型コロナウイルス感染症の更なる拡大が懸念される中ではありましたが、京都府南部地域の視覚障害のある児童生徒の教育に携わっておられる先生方が積極的に参加してくださり、また関係諸機関の御協力をいただき研修会を開催することができました。心より御礼を申し上げます。

日 時	令和3年8月18日(水) 14:15~16:45
テ ー マ	①「見えにくさのある子に必要な学ぶ力、生きる力を考える」 ②「学ぶ力、生きる力をつける具体的な指導や手立てを考える」
指導助言	京都府専門家チーム委員 森上 和 氏
場 所	京都府スーパーサポートセンター SSCラボ

【話題提供・意見交流】

当日は、小学校の特別支援学級の担任の先生が4名、通級指導教室担当の先生が2名、通常の学級の担任の先生が1名、そして盲学校の先生が2名、山城教育局から指導主事の先生が1名の計10名の先生方にお集まりいただきました。



参加者の自己紹介として担当している児童生徒の状況や長所を5つ紹介していただくところからスタートし、上記の二つのテーマに基づき、SSCからの話題提供の後、意見交流そして森上先生の指導助言という形で進めました。

意見交流では、参加された先生方が、担当している児童生徒の課題に応じて、日頃行っている指導や支援、工夫されている点、また悩まれている点などを出し合いました。その中で森上先生の指導助言を受けて、二学期からの具体的な指導の方向性を報告される場面もありました。

指導助言は、「20年後30年後どういう大人になるのか想像してほしい」というお言葉から始まり、森上先生ご自身がこれまでに関わりのあった児童生徒の大人になった現在の暮らしぶりをお話していただき、子どもころからの指導や支援の在り方が、大人になってからの暮らしぶりや大いにつながっていることを改めて感じる機会となりました。



その中で、社会性を身につけるための交流学級の活用、低学年と高学年での指導・支援のポイントの違い、そしてあらゆる学習や生きていくためのエネルギーの源とも言える好奇心や興味関心を持たせることの大切さ、さらには保護者の理解や協力を得るための取組の実例などをお話していただき、明日からでも実践していきたいと思える内容でした。

学習自体が着地点にならないよう、子どもたちに「生きる力」すなわち生活力や発信力、周りの状況を捉える力等をつけ、人生を楽しむ心を育てていけるよう、身近な指導者の関わり方はどうあるべきなのか考える時間を持つことができ、明日からの指導に多くの示唆と活力をいただきました。

【受講者の感想から】

- ・各校の児童の実態や自立活動の工夫等について詳しく学ぶことができ、有意義な研修となりました。担任の先生もひとり一人自分の考えを話す機会があったので、日々悩んだり考えたりしておられることを少しずつ出すことができたと思います。
- ・二学期からの指導・支援について、一学期の取組をふり返り、新たな目標を設定する機会となり良かった。
- ・これまでと違う新しい視点に気付き、指導の新たな切り口を見つけることができました。
- ・森上先生の「将来の姿」のお話は、今担当している子どもにどんな力をつけないといけないかが見える内容でとても良かったです。